

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村 3402-4

TEL: 0261-62-9077 FAX: 0261-62-6294

E-mail: ringotei@cameo.plala.or.jp

町田 登・幸子

新見の吉田さんから餅(無農薬米)が今年も届いた。あ～またこの時期になったのだなあと溜め息をついた。その箱の中に、今年ほど年齢を感じたことがなかったとの一文があった。通信だけのやりとりで、まだ一度もお目にかかったことがないのだが、同世代の私たちとすれば頷くことばかりです。

焼き締めをやっている森岡さんがみえて、今、白磁用の窯を作っているんだ。あと8年頑張ると。完成度の高い作品を見てきて、もうこれでいいのではないかと思えるのだが、すごい意欲ですねと頭が下がった。

そして我が家の風物詩でもある野沢菜の漬け込みが済んだ。幸子さんとさとみちゃんの仕事だが、いつの間にかお婆あさんのその仕草が似合うようになっていたのを感じた。私の担当のキムチ漬けはまだ始まっていない。あれやこれやと外の仕事に追われて、まだ楽しい時間を持ってないのだ。

先日、娘たちがトルコへむかった。トルコの親爺さんが末期ガンとなり、この春からどうしたらよいかと悩んでいたようだ。束の間であったが富士見町まで会いに行き、それぞれの顔をみた。思わず3人の子供たちは連れていかないようにと口に出しそうになったがやめた。彼等の無事をエルドアンに祈ろうかと頭をよぎったが、政治家はいちばんあてにならないと、遙か遠くに思いを寄せるほかないと心した。

およそ2ヶ月前、友人がもつと遠い世界にいつてしまった。国道19号の橋で車と共に燃えてしまった。事故原因は解からないと最寄りの派出所の説明だった。仕事柄にもあんなに慎重に行動する姿があったのに、何故と私は涙をぬぐえきれなかった。

彼とは志賀高原の自然保護の権化と思われた人の山小屋で何度か会った。京大の霊長研のたまり場だった頃だ。その後だいぶ時間が過ぎたが、私共が仲人をやらせていただいた彼等と親しくしていることを知って私たちの距離が近くなった。彼は安曇野で焼きものをやりたいと言って訪ねられた。それなら此処でどうですかと案内した。私たちが山林の開墾の日々の息抜きに、年をとったら出合いのもとにもなった焼きものを楽しもうと思って工房と窯場の屋根を電柱と古材で造っておいたところをだ。そこで彼は窯の竹編みまで済んだのだが、たいへんな事情があつて先を断念してしまった。その後私がレンガ積みをして完成させたが、人間、どうなるか予測がつかないのが世の常だとあつげにとられた。京都の医者の子息でありながら、性に合わんと農学部に進み後年は信州にやってきた。彼の親爺さんが日頃使用していた椅子が誰もいない工房に今でもある。橋の事故現場には今でもその煤が残っている。何もなかったかのように車が行き来するが、その煤もいつか消えて事故も忘れられてしまうだろう。

この現場の橋では、1985年の1月に大きな事故があつた。福祉大学の学生を乗せたスキーバスが急カーブで滑ってダム湖に転落し、24人の生命を失ったのだ。その生命の重みで、橋巾も2倍以上に広がったのだが。偶然にも、その一時間前に私はその橋を渡った。夢とつらさが同居していたときだから忘れることもできなかつた。そして今回の事故の一時間前にもその橋を通つた。その名は昔も今も大安寺橋だ。意味あいは違ふが、テントの寺山の詞の浅川マキのけだるい歌を思い出す。“不思議な橋がこの町にある、渡つた人は帰らない”を。今でも春になると、マタタビの白い花がたも

とに咲く。いつか自分も終りのない橋を渡るだろうが、そのときまで今の姿を変えたくない思ひです。

さて、今年も私たちのりんごにおつきあいしていただきありがとうございます。11月の週末に信州大学の学生が18人、収穫作業にきてくれ、はしごを倒すことができました。コンパの席では聞き役に回り、もう大人なんだから自分たちの世界を議論し合いなさいと無責任にもダウンした。

春の花の頃には霜にあい、いちばん早く咲く中心花がほとんど溶けてしまつたが、自然とは不思議なものでもあるがまわりの花で結果を得ることになった。だからほとんどがいびつな形となつた。その後異常な熱さでシンクイムシの大発生、そして大雨があり湿度が上がり、品種によっては黒星病黒点病斑点落葉病の発生となつた。私たちの園は山際だから台風の被害は車庫用のビニールハウスが飛んだくらいで、よそと比べてさほどのことはなかつた。

味はとて濃かつたのですが虫がねえという苦情がありました。中にはりんごを返したいと言う人もあり、きつい言葉に我慢強い幸子さんもさすがに落ち込んでいました。私は老人性難聴のため電話での受け答えには難があり対応できませんが、すべて現場責任者の私にあることをちゃんと受け止めていますから、来年への宿題といたします。きつい言葉は、たぶん私たちのりんごは初めての人だと思ひのですが、おそらく無菌室でのお育ちの方か、あるいは想像してみますが。

たかがりんごで民度をはかることなどいたしません、されど私にとってはりんごです。自然の営みの中で育つた食べものです。このごろは地域おこしとかで農産物にまでブランド化が進められています。日本では古くからある柿などにも農薬が使用されるようになりました。区別は差別の始まりだと考えますが、適地適作をただちに肯定も否定もせず、その地で生産されたものは、その自然の環境条件はどうかということ念頭に置いていただくべきではないでしょうか。

5億何千年前のカンブリア紀の地層の動物の化石の研究をしている人もいれば、果てしなく気の遠くなるような距離の宇宙に飛び立つ人もいます。そうそう、このあいだの種子島からのコウノトリに、茨城でりんごを栽培している友人の“秋映”がステーションまで運ばれていきました。宇宙で食べるりんごの味はどうなのでしょう。

私ら凡人は、過去から学び近い未来に夢をつなぐことぐらしか語れないものですから、現実に向き合うことしかできません。遠い世界に逝つてしまった彼とは、人権と自由という思ひで反天皇制で一致していた。明治維新の志士ぶりをした政権は軍隊として戦地へ自衛隊を送り込んだ。安民法制も原発もすべて国会の先生方の賭博容認論議と重なってくる。依存性対策などあろうはずがないものを時間をかけるかけないでもめている恐ろしさ。こんな人々を私たちは選んでいるのです。たぶんこれが民度でしょうね。

※本年度使用した農薬商品名です。4月下旬から8月中旬まで。 オンリーワン・トレノックス・ダントツ・ジマンダイセン・4-12式ボルドー・ダズバン・ダニゲッター・フントフロアブル・ダイパワー※

約3割がジュース用にまわり、地下創庫がいっぱいになりました。一年で消化できる量なのかやや不安があります。どうかお求め下さい。それから比較的日持ちのする小玉りんご(ふじ)がまだありますので

グラニースミスと、その子供“れら”が皆様に受けとめられて、我が家にとっては嬉しいことのひとつでした。樹勢がおちつけばやや小さくなり味もやわらかくなると思ひます。来年も楽しみにして下さい。そして“れら”のきょうだいの名も付けられそうです。平和ボケしたテレビコマーシャルではありません。生物の科学的見地に基ついた摂理からです。これからますます寒くなりますが皆様お身体大切にして、来年こそは安曇野へと、お待ちしております。